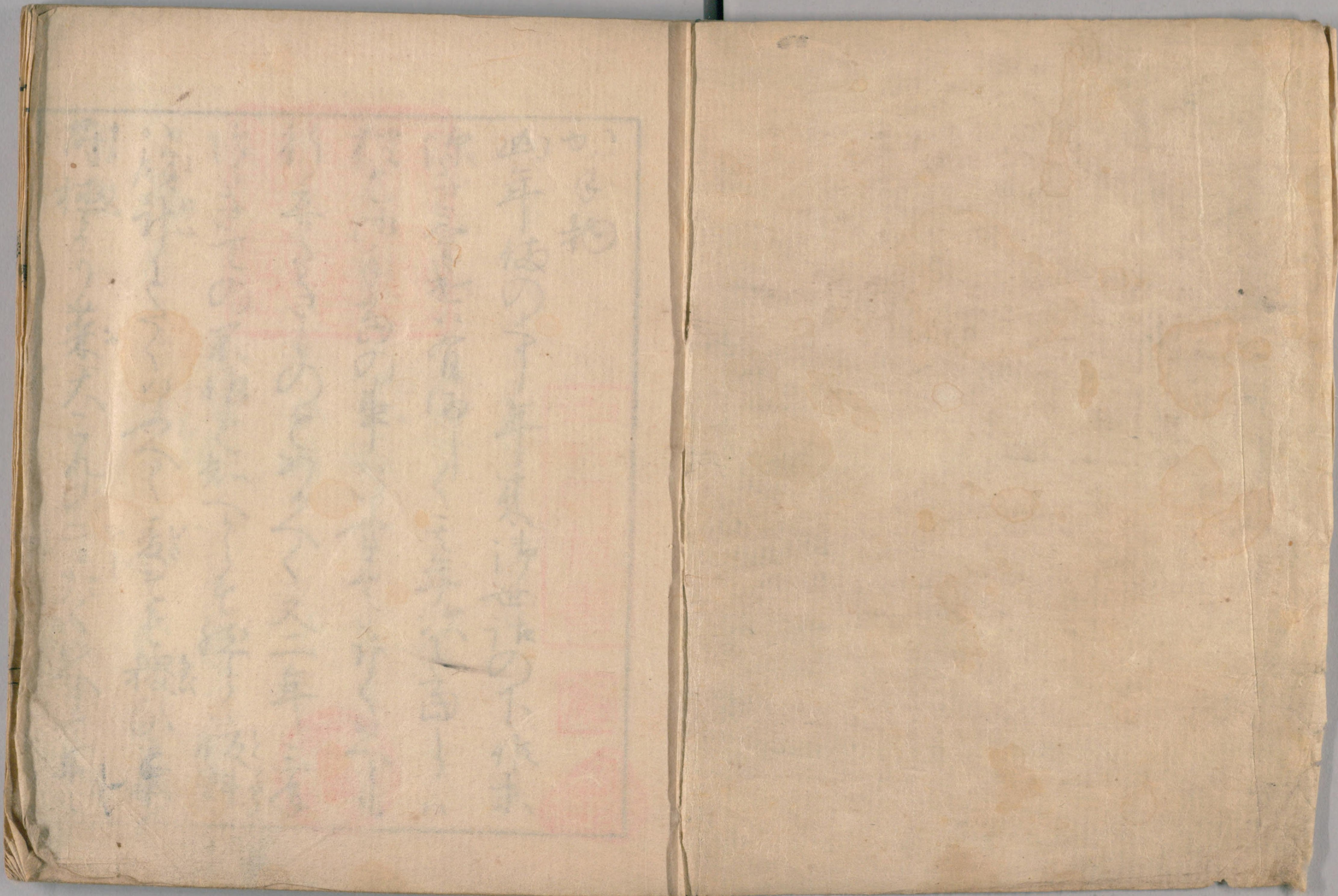


国立国会図書館 タイトル『かてもの』 請求記号 特1-2677

ガラス使用

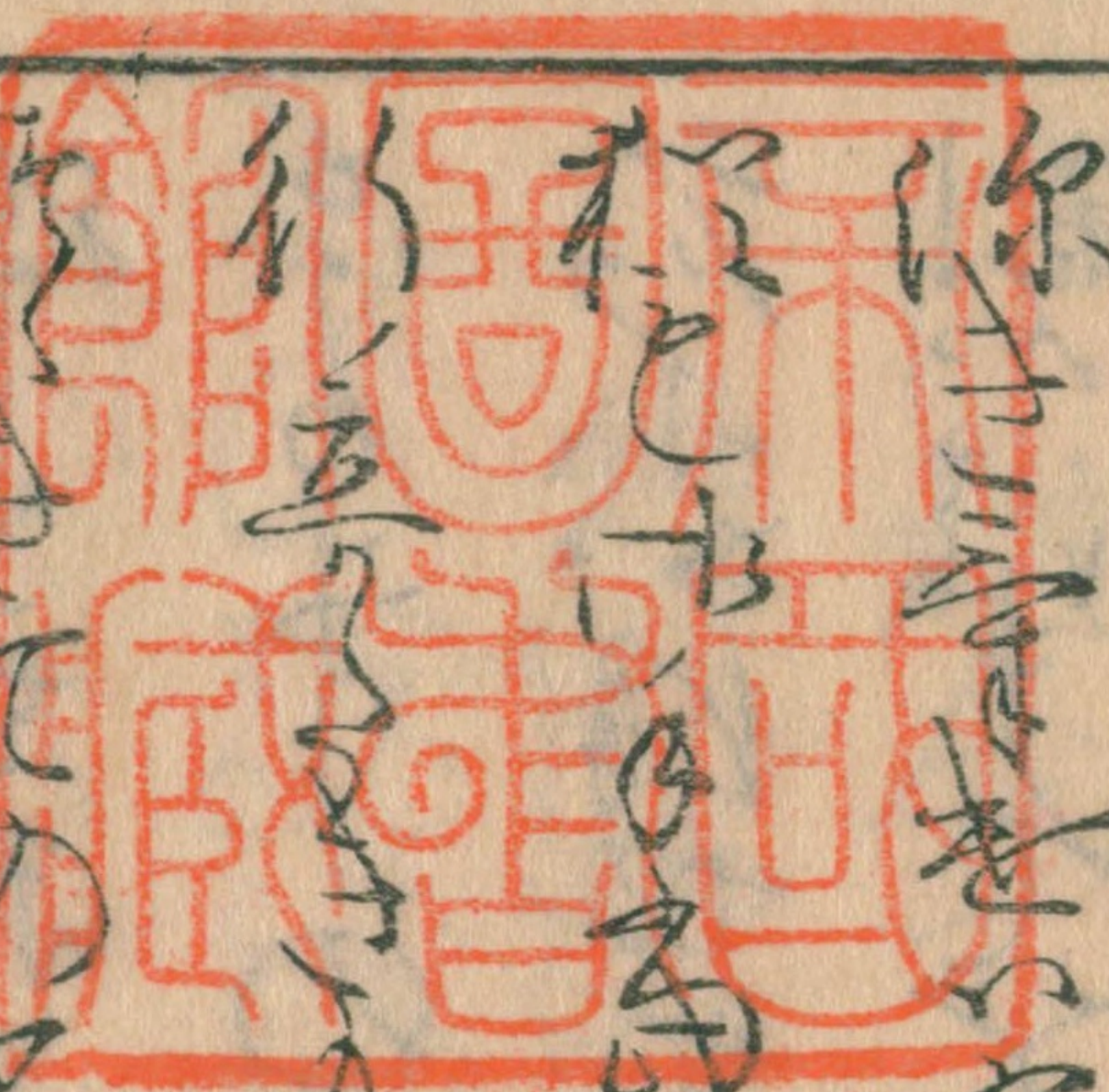


国立国会図書館 タイトル『かてもの』 請求記号 特1-2677

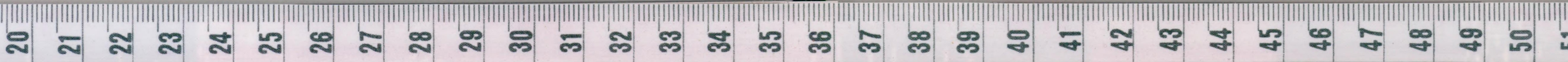
ガラス使用

かてもの
凶年使のす一年來清世の下作末
餘き^し有^る海^へく^て年^は次^に高^しハ
根^をし^ての^事に^まて^もなく^はし
行^立つ^たもの^をあ^らく^又二年^三
は^まて^の不^作と^知つ^てを^終る^に飯^料
い^はれ^しま^らく^く麦^をも^稷ひ^の
海^極より^菜太^いの^子た^くし^て年^は

白井氏藏書



か



ほろりて 煮ていびき合ふ又かて物す

ほろりて 煮ていびき合ふ又かて物す

味の粉くも餅団子かて合ふ

ほろりて 煮ていびき合ふ又かて物す

但 煮ていびき合ふ又かて物す

ほろりて 煮ていびき合ふ又かて物す

○ほ

ほど 根と煮て煮て塩とくり合ふ

○

いびき合ふ 煮ていびき合ふ又かて物す

○い

いこり 横小切 煮て煮ていびき合ふ又かて物す

いせの 煮ていびき合ふ又かて物す

煮二宿かていびき合ふ又かて物す

但老人或病後の人又病人をいびき合ふ

のよのいびき合ふ



附くく餅そり大使つまら白米

と稀新ふしとぼくのむし下世馬

して毒消

いろうごがう

根も葉もいづく命交

かて物をす根よ毒さわり葉ありあり

いさわりいさを命交しうすく命

ながし二宿ひし大豆の葉と瓢

一ぼくいめふ入て蒸り六時ぞり

にて命ふまめの葉をく大豆と用て

し又灰水ふてよく煮たぐ水とく

二三宿ひし一はらうらうら

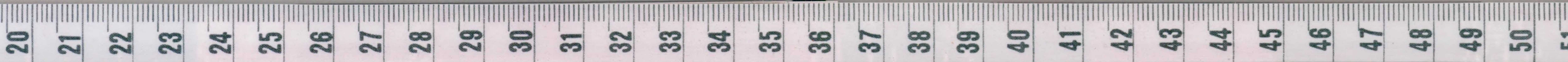
どがふ 煉葉とゆびさ命交又かて地

す

ごろぶ わら葉とわくあにてゆて水

とくいゆびさ命交

ごらの実 水とく煮た幸十回又夜



じしを念ふふれよ一宿ひをせ一
夜に焚てもう一又日小干大柳小わけ
干わりうら時わつき湯へ入りわけ
地と打て皮と去るれよひらす奉
二三百してごりわけ灰とまじり
煎せ又二三百し実と割中に白
色をみくふ焚色小ぬらう時灰氣と
洗う糲米小まじりて餅この

一をわごりて念ふ又かて地とす

○ち

ぢごりぢごり 水とて焚事十四

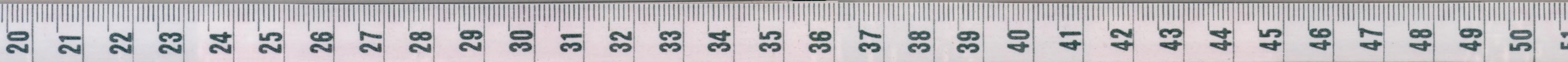
又夜一をじしを念ふれよ一宿ひ

をせ一を焚てもう一又かて地とす

○を

をけし わり焚てゆいさ念ふ又かて

地とす根い皮と去うすく切二三



あてと並てあまるとぬる干福て朱の
粉の麦の粉又こねるまるとまよく合入
しやびの粉ばらり合入す
附やび縄の帯のまよふで倍く
つらつらに揉みすねのこも
悪く物まらりものとろく日ふ十垂
て縄小まらりなふありにこもると
湯としてこりてあうなり

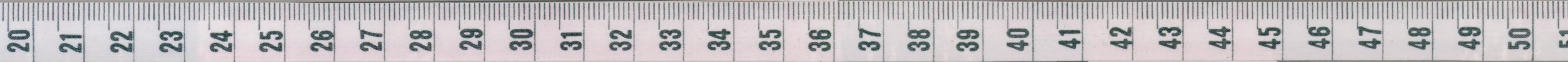
○か
かすらぬくははぬぬやこもあつ
ゆびの合入又こねる
かすらの根 皮とまよきまよす
に切一日ふ一夜づれとくしてひます
はふとふて搗たら汁とえれ
するま十筋あまり餅ざんこ
小して合入



とらなりゆきながり明してついで米の
粒よもぎく園子下へ食ふ又晒が白
にけひさそ候にまゐめても食ふ
かすのやゆびこ食ふ又かて物す
かすちやゆきもさわり煮とくゆびこ水
にこ食ふ又かて物す
かすね根とり皮とまきのめふ
かすこ米^{しちちち}淋多に二宿^{ふいふ}なりい

くわひ又ちちちふてゆき又めよ
一宿^{しちち}ひ^{しちち}てゆきす生にてい食ふ
しす
かすちち^{にこ}製方はけちち^かと
かすゆき食ふ又かて物す
かすゆき食ふ又かて物す
かすゆき食ふ又かて物す

○



よびいひのつら肉厚くして
やいひのつら肉厚くして
よきもの系 所あにていびいひして也
とす

○た

たびうこ 結いびいあにうりて食
又て地とす

○

いひのつら肉厚くして
結いびいあにうりて食

物とす

○

うどのつら肉厚くして
ゆて水と岩を漬して食又て
物とす

うるぬ いびいあにうりて食

うーいひ 根とすり所あにて結い



おしほす

うーいー

蓋も茶も紙のびんにて

地す

〇の

のふんた

いびき合ふ又おしほす

のくいる

苗根とさういびき合ふ

又おしほす

のいかりん いかりん いびき合ふ いびき 細 いびき

ぶつねならりとりこりりおしほす又福

なりとまがして白 白 せつ せつ 米の粉に

ま ま 圓 圓 に に 大豆の粉をつけて合ふ

も も 又 又 米と合 合 て焼 焼 ら ら じ じ ても

合ふ

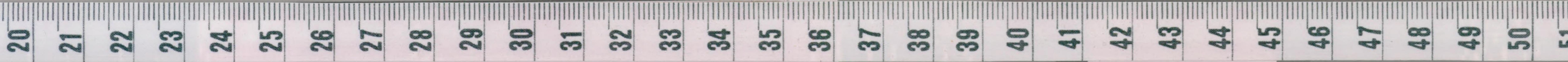
のぎく のぎく ち ち り り 美 美 と と う う い い び び き き 合 合 味 味 と

ち ち り り 合 合 又 又 お お し し ほ ほ す

〇く

とらり水^{すい}を^いすり^い車^こ十^と篇^{へん}わ^まり^り
園子^{えんこ}ふ^て合^あふ
や○
やち^ちは^はい^いぢ^ぢい^い合^あふ^あは^は地^ちと^とす
や^やい^いぢ^ぢり^り 根^ねも^も糸^{いと}も^も合^あふ^あ糸^{いと}も^もぢ^ぢい^い
ま^ま一^い岩^いぢ^ぢい^い一^い二^に夜^よ水^{みづ}と^とく^く
下^{した}地^ちと^とす^す又^{また}米^{こめ}の^の粒^{つぶ}も^も一^い園^{えん}子^こに^に
ても^{ても}合^あふ^ふ

ぐ^ぐら^らふ^ふも^もこ^こい^いぢ^ぢい^い合^あふ^あは^は地^ちと^とす
く^くん^んそ^そう^う 苗^{こゑ}も^も花^{はな}も^もぢ^ぢい^いぢ^ぢい^いぢ^ぢい^い
か^かい^い合^あふ^あは^は地^ちと^とす^す根^ねも^も又^{また}粒^{つぶ}も^もか^か
米^{こめ}の^の粒^{つぶ}も^も麦^{むぎ}の^の粒^{つぶ}も^も又^{また}米^{こめ}粒^{つぶ}と^とま^まり^り
餅^{もち}に^にゆ^ゆり^り合^あふ^ふ
く^くその^{その}糸^{いと}も^もこ^こい^いぢ^ぢい^いぢ^ぢい^いぢ^ぢい^いぢ^ぢい^い
地^ちと^とす
ぐ^ぐす^すの^の根^ね 根^ねと^と堀^{ほり}と^とり^りぢ^ぢい^いぢ^ぢい^いぢ^ぢい^いぢ^ぢい^いぢ^ぢい^い
け^け



塩とくくなく喉へ

ぶぶの木の葉に わら茶とつり 灰がそ

ゆへにこころよきまじり又まきあにてゆび

まがて死とす実とこのまといふ物て

命又いふからふは月ゆ

かドの葉に わら茶とわく水にて煮

いあどくこ二宿さかして 授命又か

て死とす 味増極くハ命とへとす

但産婦の命とす

おがこころ

○い

こんがらびいびいびい わら茶とゆびいり

さかー命又かて地とす

いりま わら茶とゆびい命又か

て地とす

但妊婦又い産後又合瘰 或脾胃

虚の人の命とす

一、うずの葉 わら葉と干して 灰水にてゆびきるゝに
三、わくありてゆて又葉水と能ゆ
びきりてゆす

一、くろがば 灰水にてゆびきるゝに
宿りて食ふ又てゆす

但脾胃虚の人の食ふゝす

○あ

あづき ゆびきりて食ふ又てゆす

あづきの葉 干してゆてゆす

げてゆす

あづきの葉 干してゆてゆす

げてゆす

あづき ゆびきりて食ふ又てゆす

但小豆と食わす

あめり ゆびきりて食ふ又てゆす

びきりて食ふ又てゆす



ギョウぎょうくくわわももいいびびここいいかからら
いいかかとといいひひ又又かかてて地地ととす

○ゆ

けりけりゆゆりりのの花花ああららののいいけけゆゆらら
ててももいいひひ又又かかてて地地ととす

○め

めめかかりりここわわららいいりりににいいるる
一一層層かかららいいびびここいいかからら又又かか
十一十一二二三三層層かかららいいびびここいいかからら又又かか

と地とす

○み

みみつつももせせりり葉葉もも根根ももいいびびここいいかからら又又

と地とす

○し

ややせんせんせせうういいひひここいいかからら又又かかてて

と地とす

但但櫻櫻又又いいわわららびび枝枝とといいひひかからら又又かかてて



附^ひく^ひ合^あ一^い惣^{そう}力^{りき}多^たれ^れ顔^{かほ}色^{いろ}香^{かほ}く^く後^{あと}
く^くり^り或^{ある}大^{おほ}使^{つか}つ^つまり^{まり}す^する^る半^{はん}わ^わい^い白^{しろ}米^{まい}
と^とお^おゆ^ゆ小^こ煮^にて^てや^やき^きこ^こま^まと^とく^くく^くび^びく^く
吃^く一^い眩^{くら}い^い大^{おほ}使^{つか}常^{つね}に^につ^つり^り
志^しさ^さみ^み 水^{みづ}と^とり^りて^て煮^に半^{はん}十^{じゅう}回^{かい}五^ご夜^や
し^しと^とく^くむ^むじ^じ一^い米^{まい}の^の粉^{こな}ま^まじ^じ一^い固^{かた}子^こ
水^{みづ}合^あふ^ふる^るれ^れ二^{ふた}三^{さん}宿^{しゆく}い^いせ^せの^の塩^{しほ}味^{あじ}
毒^{どく}も^も去^さる^る

但^た老^{らう}人^{にん}小^{せう}兒^に又^{また}ハ^ハ虚^{きょ}勞^{らう}の^の病^{びやう}人^{にん}に^に合^あせ
ゆ^ゆら^らい^い

の^の志^し

志^しこ^こが^が 結^{むす}ゆ^ゆび^びと^と煮^にて^て合^あふ^ふ

志^しん^んの^の系^{けい} わ^わり^り煮^にと^と合^あふ^ふ製^{せい}方^{ほう}用^{よう}

那^なの^のこ^こぎ^ぎり^りと^と同^{どう}一^い

の^の志^し

ぜん^{ぜん}す^すい^い 製^{せい}方^{ほう}用^{よう}方^{ほう}わ^わり^りと^と同^{どう}一^い

○す

すぎふ 徒ゆびさ合ふ文かて地す

但瘡疹わりの合ふす

すめりしやう じゆびさ合ふ文か

て地とす

但わびねと合わさるす

すいづ ちり葉も花もゆびさ合ふ

ばいばい地とす

右東家帯根の人のきよ合ふれぬ
地まは腰小針の合ふさくは
凶年に因てさかの裏合わりの
あらん事世に葉の事たけさるこ
い沙路考右葉の葉合ふさくは
いも葉小針の合ふと裏方後
に多く合ふと遠く有る割方にい

穀もくも念と入るべし又味噌塩とまじ
つてくし練いたまにむらうにひく
るすまをしりて調合ふくはす

○村役共常ん用ひきケ條

凶年に由て穀小はぐたまの油の
味噌と塩と小の平降穀食すのぶふ
もまをしりてい穀の用とまは
況穀食念く其の系なれ振と念ハ

時とや細く塩とまをの世作にん
あくとく味噌仕入の法

ぬ味噌の法 未批一石大豆二斗又二斗

塩二斗又二斗大豆と釜にて煮て釜を釜

へこぬりと炒めてさかり合和ふゆりて

入大豆の汁を煮てとくもせ

る時火と止よくつき塩こぬり大豆の

おひ合和し搗めを桶に入並三



十日ほど経て用る迄よくして置く

又法 米糍一石大豆一斗酒糟一斗

製法お小同し

又法 米糍一石酒糟一斗醬油渣一斗

こめのと谷をえよく煮て搗合す

酒糟をくい不入し

又法 米糍八俵大豆一俵塩三斗五分こ

ぬいりてかきよきおりに蒸す

かき扱ひしり人肌をん時糍

込糍のてまし桶小押玉

五斗味噌の法 大豆一斗麹一斗酒

糍一斗米糍一斗糍塩一斗右同

に搗合して月山麴と不入し

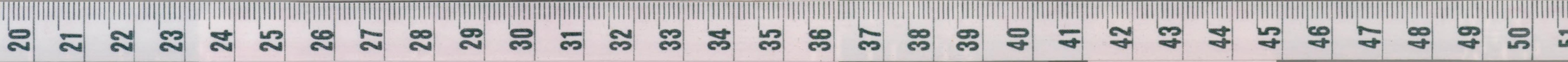
先浸味噌の法 大豆一斗塩二升右

のまそのこし製し

味噌の法 大豆一斗と餅煮熟

臼少く搗玉あり一粒日と搾て煮込
 にまじりつる多にて洗ひ臼小入搗
 くつこひひいて細末に一塩二升と
 入ると合臼の中にて搾りあせ手
 まそとくひらねしとろりこもすろ
 びて桶に入垂殺日と搾て用し
 名てく味あじまじり
 さら味増の法 櫛こしの実と臼を搗

くまじりつと玄麩煮まじりらと
 一斗(大豆一斗とよく煮て塩六升と
 入臼を同く搗き入桶小押一
 周の入ぬ板に封して煮也
 凶年用心困味増の法 大豆一升入
 塩七合と合て仕込煮あり 又凶年
 目に拂て又仕込也
 ○かまの包かまのに荷に極く重じゆうの包



大いん

かづか

ごぼり

三輪二年の地毛せん末あさとし
年こいの地こい或わたの救地やぶおと堀
返して種と多くやりまきし
本年の地も是だ又も根のゆる
き実のあつらふまにさうて

物の用とひめちくほこいしちりまこなり
あり

やまのいもやまのいもいもと
えいじうこと垣かきのやうやう或お或お
野敷地のかき堀ほして荷にけい年
にやうりて知ちと物ものけ又常に堀ほ
して常とこころも利りあり年ねん、常とこの
地ち人に寄よららす

いっゆり 実とゆり 救地或河系
前かと堀みし 荷ちすく

○干かて 救手と 治て 寄るぬ物

ゆり 秋堀より 洗ひゆて 干き

伴の水を 漬とさ 煮小いりて 又干

印を つき 粉小して 團み

いものこ 膏の伴にて よく 煮みすか

干て 粉小し 團み

いものこ 干て 團み

わび 乾て 乾にすり 粉細小切がて

團み

わび 干て 團み

くひ 秋堀より 洗ひこし 干き

干て 團み 伴の水を 漬 煮 蒸 煮 ぬ

にかして 團み 粉小し 煮り 印を

つき 粉小し 粉 穀の粉に あせ 團み

こし さい さい さい



にそふ

かゝるぬ 根と堀より泥と洗ひ

いそぎまきしういう二つを

てふまきまき干て圃の割

あふ田

らんざり 落る時ひろひ干て

はのわさる時印をすき

とふまきまきに入

も十日けりしてふ干て傍入
て圃の割はあふ田

あふ田 去年の凶作小

し、今年もあふ田

来りてはあふ田

摘りしは一人のぼり又七

俵八九俵と圃いてかて物と足す

嫩芽嫩葉はゆいさか

本も大く、毒のしと云然といふも
さくさくさくさくさくと大せり鬼せうを
ふらふひのほのぞくし

○奥鳥獣肉のかけ

凶年あゝぬふ、奥鳥毛の肉と
食ひの汁と煮るの助がー况老
うらゝの、肉ふらゝれ、煮ひら
し、凶年穀食をさしとやう次

年次、よきものわらうらうらふま
てと、煮て、塩、平、切、ふ、ん、を
の、煮、れ、く、ふ、も、わ、ら、ん、つ、ひ
も、世、は、の、一、な、ら、ん、野、猪、の、肉、と
厚、二、寸、長、六、七、寸、に、切、煎、茶、を、て
む、し、ら、う、と、お、し、厚、と、ぬ、り、縄、を、て、あ
そ、火、を、か、き、あ、火、棚、の、う、ら、か、と
に、は、ら、う、と、け、い、救、十、年、と、注、で、書、き、



特1
2677

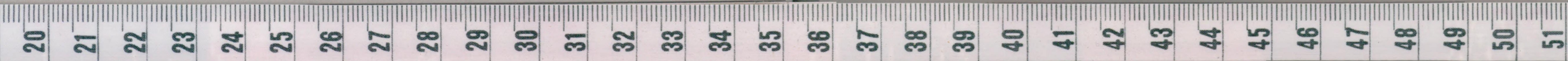
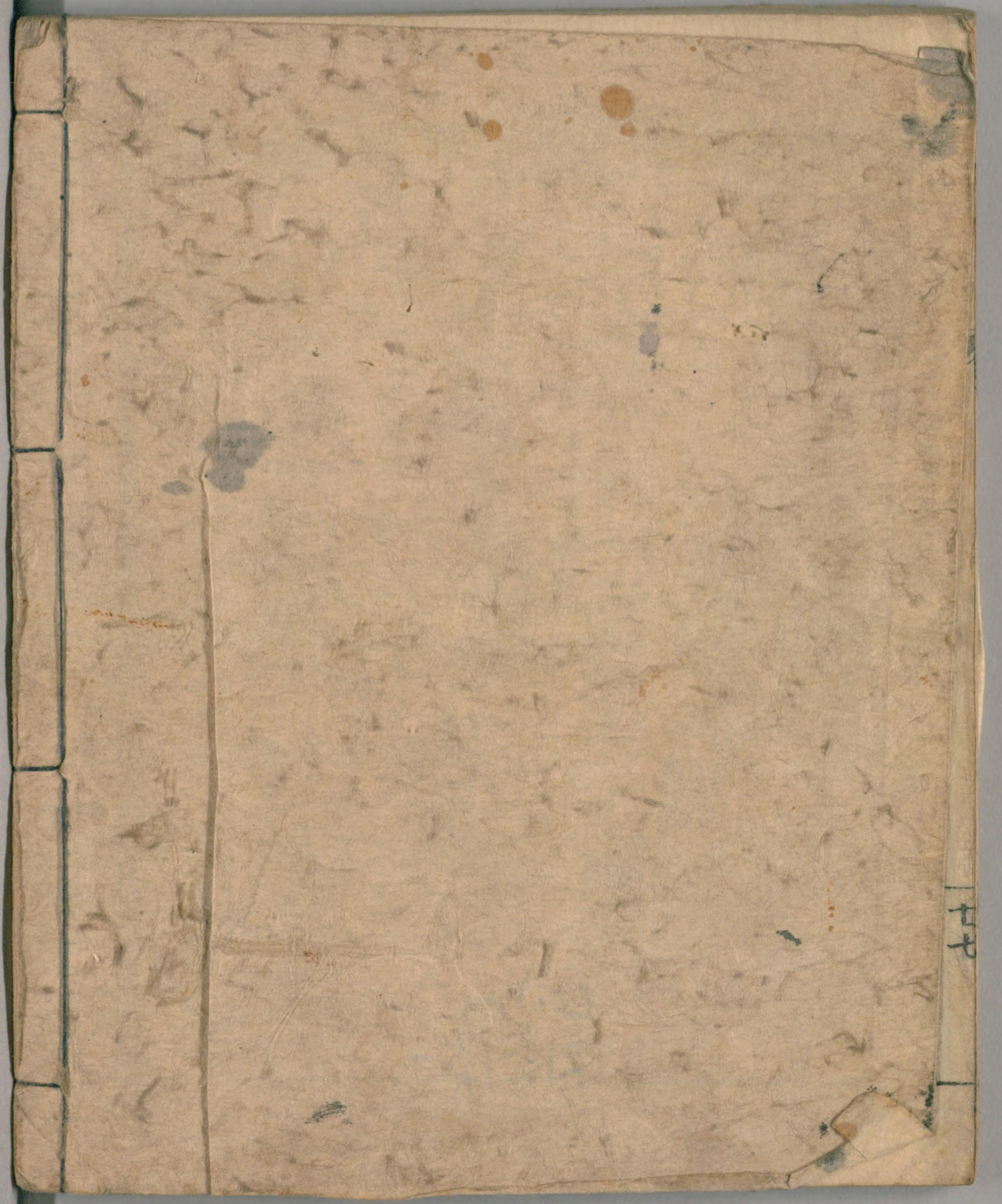
享和二年三月

中條
佐戸

油でこじしむすすと云真毛は
あふく丸に衰る腋と書くへ一毛も示
つゆの一から一
右の今の本なる目結んばせよとの
中條佐戸の書

用る時、わくと洗ひがうし小刀にて行
り用るふ、髪髪よかすすと云但
結ひじて物と書くうは法を云て
糸く固ひくくしむすへ
細く、髪結をりふも根つす何
毛の肉も固くならんは是等の
んけを亦まのしむくへ又固くた
かすと云ゆてくわく固くは昔年と





国立国会図書館 タイトル『かてもの』 請求記号 特1-2677

ガラス使用